

AIM HIGH（望みを高く持つ）

学長 安 酸 敏 眞

新入生の皆さん、北海学園大学への入学おめでとうございます。大学を代表して心よりお祝いを申し上げます。

北海学園大学の大まかな沿革を申し上げれば、本学は1950（昭和25）年に産声を上げた北海短期大学を前身として、その2年後の1952（昭和27）年に創立されました。ですから今年で創基67年になりますが、しかしその母体である学校法人北海学園の歴史を繙けば、その礎石は遥か132年前の1885（明治18）年に据えられたことがわかります。すなわち、北海道開拓のための人材育成を目的に、この年に創設された「北海英語学校」がそもそもの原点です。北海学園大学の建学の精神が自由と自立の「開拓者精神」であるのは、このような背景があるからです。

北海学園がいかに由緒ある学園であるかは、他の有名私立大学と比較してみれば一目瞭然です。慶應義塾大学は「蘭学塾」（1858年開塾）にまで遡りますので別格ですが、これを別にすれば、同志社大学（前身の「同志社英学校」は1875年設立）、明治大学（前身の「明治法律学校」は1881年設立）、早稲田大学（前身の「東京専門学校」は1882年設立）、中央大学（前身の「英吉利法律学校」は1885年設立）、立命館大学（前身の「私立京都法政学校」は1900年設立）などと比べても、わが学園は遜色のない古さを誇っています。しかしこのような古い歴史をもちながら、大学そのものの設立において本州の諸大学に大きな後れを取ってしまったのは、何と言っても北海道の辺境性に起因する特異な困難があったからです。にもかかわらず、本学園の先人たちは幾多の困難を乗り越えて、1952（昭和27）年についてに四年制大学の設立にまで漕ぎつけたのです。

現在、わが北海学園大学には、経済学部、経営学部、法学部、人文学部、工学部の5つの学部があり、その上には5つの大学院研究科と、さらに専門職法科大学院法務研究科があります。在学生約8300名、卒業生8万3044名を数えますので、名実ともに北海道最大の私立総合大学として、その地位は揺るぎないものになっています。けれども、われわれはこれに甘んじることはできません。なぜなら、日本全体にまで視野を広げると、われわれはいまだに後塵を拝する立場にあるからです。

さて、現代の大学は世界的に未曾有の諸問題に直面しています。とりわけわが国の大学に重くのしかかっている難題にグローバル化の問題があります。グローバル化は、地球上のあらゆる地域とそこに暮らす人々に影響を及ぼしており、大学もその例外ではあり得ません。グローバル化の大波のなかで、いかに自らの立ち位置と方向性を定めるかは、すべての大学にとって喫緊の要事なのです。けれども、その際に忘れてはならないことは、グローバル化はかえって地域の特殊性を際立たせると

ということです。皆さんはグローバル化（glocalization）という言葉をご存知でしょうか。これは全世界を巻き込んで進行中の「世界普遍化」（globalization）と、地域の特色や特性を考慮していく「地域限定化」（localization）の二つを掛け合わせた混成語です。グローバル（地球規模の・世界的）とローカル（地域的）は対蹠的な概念でありながらも、グローバル化に適切に対処するためには、かえって地域にしっかり根差すことが重要なのです。近年、「グローバル人材の育成」という言葉をよく耳にしますが、「グローバル人材」とは自らが立脚する国や地域の言語・文化・歴史の特殊性を深く理解しつつ、異文化や多文化にも開かれており、国際的に通用する言語でコミュニケーションできる人のことです。北海学園大学は今後そのような人材の育成に力を尽くす所存です。将来世界の舞台で活躍したい人は勿論のこと、どんなローカルな職場で働くにせよ、「地球規模で考える」ことはいまや必須の事項です。「地球規模で考えながら、自分の地域で活動する」（Think globally, act locally）と言われる所以です。ですから、在学中に「地球規模で考える」知的訓練に大いに励み、グローバルな思考を身につけた有為な人材として、地域社会にあるいは国際社会に羽ばたいていかれることを期待する次第です。

そこで、皆さんが大学生活を漫然と過ごさないために、一つの言葉をここに贈ります。それは“aim high”という言葉です。この言葉は「望みを高く持つ」「目標を高いところに置く」「狙いが高い」というほどの意味です。わたしは今から三十七年前、アメリカ留学中にこの言葉と出会い、爾来これを座右の銘にしてきました。ちなみに、これはUS Air Force（米国空軍）のモットーにもなっています。日本語の「高望みする」という表現は、自分の能力や身分以上のことを望むことを意味し、否定的なニュアンスを帯びていますが、“aim high”はそれとは違います。「高望みする」は“aim too high”です。たしかに身の丈を超えた望みを抱くとひどい目にあうのが世の常ですが、皆さんのような前途ある若者は“aim low”ではなく、“aim high”でなければなりません。学業においても高い志、崇高な目標のないところに、真に立派な成果は期待できないからです。望みを高く持てば持つほど、それだけ克服すべき障害や困難は増えるでしょう。しかし望みを高く持てこそ幾多の困難にも打ち勝つことができるのです。“aim high”はクラーク博士の「少年よ、大志を抱け」（“Boys, be ambitious”）にも通じます。それはまたスクール・モットーである「開拓者精神」にも通じるものです。

皆さんは本日の入学式をもって北海学園大学の学生となりました。混迷を深めるこの時代に、北海道の大地から「開拓者精神」の松明を、全国・全世界に向けて高く掲げようではありませんか。“Aim high!” 皆さんひとり一人が「望みを高く持て」、充実した学生生活を送られることを願って、入学式の式辞といたします。

2017年4月2日